「自分の夢にチャレンジして！」

日本の医師試験に合格

ハンガリーの ボルバーラ・キシュさん

日本語をたいへん流暢に話すボルバーラ・キシュさん

ハンガリー国籍の医師であるボルバーラ・キシュさんが、このほど日本の医師国家試験に合格し、この4月から大阪の病院で臨床研修に励む。海を越え、言葉のカベを超えて自らの夢を実現させたキシュさんに、ハンガリー大使館で話を聞いた。同国のセルダヘイ・イシュトヴァーン特命全権大使も臨席した。（インタビュアー・石倉秀哉ハンガリー医科大学事務局代表／敬称略）

■　□　■

石倉　合格おめでとうございます。試験では何がたいへんでしたか。

キシュ　日本語の病名や解剖学上の器官の名称などは、学術用語のラテン語に置き換えれば意味は分かるので、それほど苦労しませんでした。ハンガリーで難しいのは口頭試験ですが、日本は筆記試験だけです。しかし、ヨーロッパではあまり聞かない疾患や公衆衛生の問題などがありました。医学の進歩は速く、私がハンガリーで医師になった06年から今までに、一部の知識はもう古くなっていますので、勉強し直しました。日本語診療能力調査【言葉メモ】では「もどす」が「嘔吐」の意味にとれず、1回失敗し、2回目で合格しました。

石倉　日本語の勉強はたいへんだったのでは。

キシュ　外国人への受験資格認定には、日本語能力試験1級が必要です。ハンガリーでは高校で日本語を学び、3級を持っていましたが、1級を目指して1年間、日本語学校に通い、医師試験のための準備で2年間、予備校に通いましたので、合格までに3年かかりました。でも、あっという間でした。国際的なたくさんの友だちもできて、楽しかったです。

石倉　日本の食べものは。

キシュ　なんでも食べられますが納豆は自分から食べようとはしません。天ぷらが好きです。

石倉　日本とハンガリーで、医師と患者の関係に違いはありますか。

右がセルダヘイ・イシュトヴァーン特命全権大使

キシュ　基本的にはあまりないと思います。日本人は恥ずかしがり屋のところがありますので、そこは尊重して接していけばよいと思います。

石倉　これから大阪で研修医としての2年間が始まります。その後、後期研修が始まります。

キシュ　私は救急救命の部署で研修が始まります。専門は放射線科なので、その後は、そちらに進みたいです。

石倉　自分が抱いた夢や希望をどのようにかなえていったらよいか、日本の子どもたちにメッセージを。

キシュ　自分がやりたいことをよく考え、可能性が少しでもあるのなら、それを周りがどんなに無理だと言ったとしても、1回チャレンジしてください。周りの人に影響されて諦めないでください。私も、日本語を知らないハンガリー人に、今から日本に行って日本の医師国家試験を受けますと言ったら、それは無理だと言うでしょう。挑戦することが大事です。

石倉　キシュさんが日本の医師試験を合格したことについて、日本への留学経験がある大使はどう思われますか。

大使　日本は明治時代の初めに、海外に留学して非常に多くを学びましたが、いま日本の若者の間には内向き志向があり、留学する高校生や大学生が少なくなっています。しかし、国際化が進む時代にあって、いまいちど明治のように、日本は意識を新たにし、競争力をつける必要があるかもしれません。日本人がハンガリーの大学で医師資格を取るプログラムがあり、このたびはボルバーラ・キシュさんが日本の医師になりました。このような両国の交わりは貴重な宝で、友好を深めるためにも大いに歓迎します。

【言葉メモ】海外の医師免許を持つ外国籍の人が日本の医師国家試験を受けるまで＝海外の医大での履修内容などの証明書を添えて受験を厚労省に申請。書類審査で、①受験資格なし②予備試験を受ける③本試験を受ける③認定に分けられる。キシュさんは③に該当。本試験の前に「日本語診療能力調査」を受ける。1人10分、医師が模擬患者となり、日本語で問診してカルテを書く能力を確かめる。